

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	こどもと造形 II	
科目基礎情報					
開設学科	こども学科	コース名	幼稚園教諭・保育士コース	開設期	前期
対象年次	2年次	科目区分	必修	時間数	15時間
単位数	1単位	授業形態	演習		
教科書/教材	毎回レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。				
担当教員情報					
担当教員	井上 厚		実務経験の有無・職種	無	
学習目的					
乳幼児期は、人格の基礎が形成される時期である。この時期の教育において育みたい資質・能力を幼児の生活する姿から捉えたものの内容として五領域「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」が挙げられる。この科目は5領域の中から「表現」に関わる科目である。自身が保育者となった時に、個々のこども達が、自分なりの自由な表現が出来る指導援助が出来ることを目的とする。					
到達目標					
こどもの造形の指導援助をする際に必要な、様々な造形の実践的な技法が身についている。学生が将来保育者として造形の指導援助をする際や、保育実習や幼稚園実習での部分実習を行う際に造形活動の内容に見合ったものを判断し、選択出来るようになる。また、制作するだけでなく、技法、環境構成、用具、素材、準備するものなどを学び、記録してレポートにまとめることで指導案が作成に備える。					
教育方法等					
授業概要	1年次に履修した「こどもと造形」や、「造形表現論」などの造形の基礎的な科目を踏まえて、実践的な実技演習を学ぶ。保育の現場や実習で実際に行うことのできるカリキュラムに用いることの出来る技法を、既に習得した様々な造形遊びの技法の中から選択し、制作する。また、これまで蓄積したレポートを参考に指導案を書くための準備をする。				
注意点	授業時数の4分の3以上出席しないものは作品の提出を認めない。材料や用具の準備、および清掃、用具の洗浄などは授業ごとに毎回協力して積極的に行うこと。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	提出作品	60%	提出された作品の制作技術、完成度、アイディアなど総合的に評価する		
	レポート	30%	環境構成、制作方法、素材、用具などを記録したレポートを評価する		
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～8回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	紙皿でシーソーの制作		紙皿を使ったシーソーの制作を身に付ける。手順、展開方法などを理解する。		
2回	紙コップで花の制作		紙コップを使った花の制作を身に付ける。手順、展開方法などを理解する。		
3回	でんでん太鼓の制作		紙皿を使ったでんでん太鼓の制作を身に付ける。手順、展開方法などを理解する。		
4回	ちいさな本の制作		画用紙を使った小さな本の制作を身に付ける。手順を理解する。		
5回	お面の制作		様々な造形遊びの技法から選択して画用紙と厚紙でお面の制作を身に付ける。		
6回	ペン立ての制作		様々な造形遊びの技法から選択して画用紙と牛乳パックでペン立ての制作を身に付ける。		
7回	砂絵の制作		砂に色を付けて砂絵の制作を身に付ける。段ボールの額縁の制作を身に付ける。		
8回	お弁当の制作		樹脂粘土の特性を理解し、お弁当箱、具材をつくる制作を身に付ける。		
9回					
10回					
11回					
12回					
13回					
14回					
15回					

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	こどもと造形Ⅱ	
科目基礎情報					
開設学科	こども学科	コース名	保育士コース	開設期	前期
対象年次	2年次	科目区分	必修	時間数	15時間
単位数	1単位	授業形態	演習		
教科書/教材	毎回レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。				
担当教員情報					
担当教員	井上 厚		実務経験の有無・職種	無	
学習目的					
乳幼児期は、人格の基礎が形成される時期である。この時期の教育において育みたい資質・能力を幼児の生活する姿から捉えたものの内容として五領域「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」が挙げられる。この科目は5領域の中から「表現」に関わる科目である。自身が保育者となった時に、個々のこども達が、自分なりの自由な表現が出来る指導援助が出来ることを目的とする。					
到達目標					
こどもの造形の指導援助をする際に必要な、様々な造形の実践的な技法が身に付いている。学生が将来保育者として造形の指導援助をする際や、保育実習や幼稚園実習での部分実習を行う際に造形活動の内容に見合ったものを判断し、選択出来るようになる。また、制作するだけでなく、技法、環境構成、用具、素材、準備するものなどを学び、記録してレポートにまとめることで指導案が作成に備える。					
教育方法等					
授業概要	1年次に履修した「こどもと造形」や、「造形表現論」などの造形の基礎的な科目を踏まえて、この授業では実践的な実技演習を学ぶ。保育の現場や実習で実際に行うことのできるカリキュラムに用いることの出来る技法を、既に習得した様々な造形遊びの技法の中から選択し、制作する。また、これまで蓄積したレポートを参考に指導案を書くための準備をする。				
注意点	授業時数の4分の3以上出席しないものは作品の提出を認めない。材料や用具の準備、および清掃、用具の洗浄などは授業ごとに毎回協力して積極的に行うこと。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	提出作品	60%	提出された作品の制作技術、完成度、アイディアなど総合的に評価する		
	レポート	30%	環境構成、制作方法、素材、用具などを記録したレポートを評価する		
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～8回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	紙皿でシーソーの制作		紙皿を使ったシーソーの制作を身に付ける。手順、展開方法などを理解する。		
2回	紙コップで花の制作		紙コップを使った花の制作を身に付ける。手順、展開方法などを理解する。		
3回	でんでん太鼓の制作		紙皿を使ったでんでん太鼓の制作を身に付ける。手順、展開方法などを理解する。		
4回	ちいさな本の制作		画用紙を使った小さな本の制作を身に付ける。手順を理解する。		
5回	お面の制作		様々な造形遊びの技法から選択して画用紙と厚紙でお面の制作を身に付ける。		
6回	ペン立ての制作		様々な造形遊びの技法から選択して画用紙と牛乳パックでペン立ての制作を身に付ける。		
7回	砂絵の制作		砂に色を付けて砂絵の制作を身に付ける。段ボールの額縁の制作を身に付ける。		
8回	お弁当の制作		樹脂粘土の特性を理解し、お弁当箱、具材をつくる制作を身に付ける。		
9回					
10回					
11回					
12回					
13回					
14回					
15回					